

インフォメーション・コーナー

平成 29 年（2017 年）九州北部豪雨災害に関する農業農村工学会の取組み

九州北部豪雨災害の被災者の方々に対し心からお見舞い申し上げます。

農業農村工学会では、平成 29 年（2017 年）九州北部豪雨災害に関する学会内の関連委員会および支部における調査団の結成や調査活動の連携を円滑化するとともに、調査結果等の情報収集・公表、復興支援対策を一元化するために対策本部（本部長は、災害対応特別委員会 委員長 青山咸康京都大学名誉教授）を設置しました。

会 告

○「2050 年農業・農村の姿」ポスターへの投票をお願いします。 締切 8 月 20 日	82
○平成 29 年度農業農村工学会大会講演会記念行事の開催について 8 月 30～31 日開催	82
○第 41 回「水の週間」水のワークショップ・展示会について（第 3 報） 8 月 15～17 日開催	83
○平成 30 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再） 締切 10 月 31 日	83
○平成 29 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再） 申請締切 9 月 15 日	83
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	84
○学生会員入会時の特典について	84
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!	85
○平成 30 年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9 月 30 日	85
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	86
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016 年 7 月から 2018 年 6 月までの編集事務局について	87
○平成 29 年度東北支部総会・第 59 回東北支部研究発表会ならびに第 49 回東北支部研修会・ 第 39 回地方講習会の開催について（第 2 報） 発表申込締切 9 月 25 日	88
○平成 29 年度九州沖縄支部大会（第 98 回講演会・講習会・シンポジウム・特別講演会） の開催について（第 3 報） プログラムが一部変更	89
○農地保全研究部会勉強会の開催について（第 1 報） 8 月 29 日～9 月 1 日の大会講演会期間中に開催予定	90
○土壌物理研究部会第 56 回研究集会の開催について（第 1 報） 10 月 13 日開催	91
○農地保全研究部会第 38 回研究集会および現地研修会の開催について（第 2 報） 11 月 16, 17 日開催	91
○平成 29 年度農業農村整備サマーセミナー（第 54 回）の開催について 参加申込締切 8 月 16 日	91
○第 20 回（2018 年）「日本水大賞」の募集について 応募締切 10 月 31 日	92
○平成 29 年度腐食鋼矢板技術講習会の開催および講演募集について（第 2 報） 応募締切 8 月 31 日	93
農業農村工学会論文集内容紹介	94
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	95
受入れ図書	96
文献目録	96
学会記事	100

第 85 巻第 9 号予定

展望：現場からみた土地改良法の改正について：長崎泰樹

小特集：法改正にみる土地改良のこれから

▷報文：構造政策と土地改良制度の展開，ならびにその今日的課題：野々村圭造

▷報文：土地改良区のあり方に関する経営・経済学的考察：木下幸雄

▷報文：次世代型水管理技術を導入するための土地改良事業のあり方：進藤惣治ほか

▷報文：基幹水利施設の持続的な更新のための新たな制度的枠組み：荘林幹太郎ほか

▷報文：農家数減少に伴う土地改良区の改革と農業農村整備政策：西原是良

▷報文：改正土地改良法による新たな農地集積と圃場整備：石井 敦

技術リポート

北海道支部：含礫土壌におけるふるい分けによる暗渠排水整備コスト縮減：赤坂 浩ほか

関東支部：穴山新田堰の改修工事におけるコンクリートひび割れ対策：本田充広

京都支部：サイホン工事における希少生物への影響調査と今後への提言：千葉宏美

中国四国支部：地すべり対策アンカー施工時における安全確保事例：岡本雅美

九州沖縄支部：広域排水流域における農用地造成設計：花城 晶

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成29年8月15～17日	農業用水展示実行委員会	第41回「水の週間」水のワークショップ・展示会	いのち育む農業用水	東京都	85巻6,7,8号
平成29年8月29日～9月1日	大会運営委員会	平成29年度大会講演会・記念行事	ⓑ	藤沢市	84巻12号 85巻1,4,8号
大会講演会期間中	農地保全研究部会	勉強会	—	藤沢市	85巻8号
平成29年8月31日～9月2日	農業農村工学サマーセミナー実行委員会	サマーセミナー2017	都市型農業を通してこれからの農業、農業農村工学を考えたよう(仮)	神奈川県内(予定)	85巻5,7号
平成29年9月19日	農村計画研究部会	第39回現地研修集会	ⓑ 都市圏農業基盤の保全と活用	横浜市ほか	85巻7号
平成29年10月13日	土壌物理研究部会	第56回研究集会	ⓑ	札幌市	85巻8号
平成29年10月25,26日	京都支部	第74回研究発表会	ⓑ	金沢市	85巻4,6号
平成29年10月26,27日	中国四国支部	第72回支部講演会・第41回地方講習会	ⓑ	徳島市	85巻5,6,7号
平成29年11月1,2日	九州沖縄支部	平成29年度支部大会	ⓑ	福岡市	85巻4,7,8号
平成29年11月7日	関東支部	第68回支部大会	ⓑ	千葉市	85巻7号
平成29年11月8～10日	東北支部	平成29年度総会・第59回支部研究発表会・第49回支部研修会・第39回地方講習会	ⓑ	盛岡市	85巻7,8号
平成29年11月16,17日	農地保全研究部会	第38回研究集会・現地研修会	ⓑ 水田転作と農地保生	福山市ほか	85巻5,8巻

「2050年農業・農村の姿」ポスターへの投票をお願いします。

農業農村工学会では、「2050年農業・農村の姿」実行委員会を設けて、「2050年農業・農村の姿」を高校生、大学生、そして学会員を含む一般部門にわけて、ポスターを募集しました。優秀な作品は、平成29年8月30日、日本大学生物資源科学部(神奈川県藤沢市)で開催する大会講演会で表彰します。

是非、学会員の皆さんには優秀な作品について投票をお願いします。

投票期間は平成29年8月20日(日)までです。

投票は、<https://questant.jp/q/FORE2050>よりお願いします。



平成29年度農業農村工学会大会講演会記念行事の開催について

公益社団法人農業農村工学会は「農業農村工学の進歩及び農業農村工学に関わる研究者・技術者の資質向上を図り、学術・技術の振興と社会の発展に寄与する」ことを目的としています。農業農村工学の果たしている役割や魅力を広く一般市民、特に高校生、大学生に対して発信することが重要であるため、記念行事を次の要領で開催します。

1. テーマ 学校～研究～地域をつなぐ“農業農村工学”
—現場の課題を未来の「水土の知」へ(仮称)
2. 期日 平成29年8月30日(水)～31日(木)
3. 場所 日本大学生物資源科学部2号館2階
221, 222 講義室
4. 参加費 無料

5. 主催 (公社) 農業農村工学会
後援 農林水産省関東農政局, 神奈川県, 神奈川県教育委員会, 藤沢市, 日本大学生物資源科学部
6. プログラム(案)
8月30日(水)
10:00～12:40(会場:222 講義室)
地域～海外で活躍する技術者による大学生向け仕事の紹介セミナー:
「“農業農村工学”でどう生きる?(どんな職業に就く?)」
13:00～14:00(会場:221 講義室)
表彰式:
・ポスターコンテスト

「君が考える『2050年の農業・農村の姿』」

・ミニ動画コンテスト

「こりゃ映像(えいぞ〜)！2017」

14:15~16:00(会場:222講義室)

大学教員による模擬授業:

「日本の小さな田んぼから世界の食料・地域環境を考える
“農業農村工学”」

7. 展示会

会場:221講義室

日時:8月30日(水)10:00~17:00

8月31日(木)10:00~15:00

(1) 大学生・大学院生による農業農村工学や大学でのコース専攻、研究生活等の紹介

(2) ポスター・模型等

(3) 動画

・ミニ動画コンテスト「こりゃ映像(えいぞ〜)！2017」受賞作品等の上映

8. 問合せ先

(公社)農業農村工学会 事務局

E-mail:suido@jsidre.or.jp TEL:03-3436-3418

第41回「水の週間」水のワークショップ・展示会について(第3報)

「水のワークショップ・展示会」は例年同様「水の週間」のイベントの一つとして行われます。

今年も昨年までと同様に、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、関係団体の協力を得て、農業用水分野として展示の準備を進めております。昨年と同様に東京国際フォーラムで開催される丸の内キッズジャンボリーのイベントの一つとして出展します。

多くの方のご来場をお待ちしております。

記

1. 会期 平成29年8月15日(火)~17日(木)

10:00~17:00

2. 場所 東京国際フォーラム G棟701

3. 主催 水循環政策本部, 国土交通省, 東京都, 水の週間実行委員会

4. 全体テーマ 水のハッピーデー~水について学ぼう~

5. 農業用水テーマ いのち育む農業用水

6. 展示内容

学生によるワークショップ, iPadアプリによるゲーム・クイズ, パネル展示, 畑作物の実物展示, 田んぼの生き物水槽など

平成30年度農業農村工学会賞候補の推薦について(再)

平成30年度の農業農村工学会賞(上野賞, 沢田賞を除く)を、本誌第85巻第6号84~85ページ掲載の募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。

締切は、平成29年10月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照ください。

平成29年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について(再)

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度(原則1件20万円以内)です。

本年度の申請締切は平成29年9月15日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請: 会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。

りとする。

2. 認定: 研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成するグループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。

3. 助成: 研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。

4. 助成対象: 申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究するこ

とが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

- (ロ)「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

5. 活動報告:助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登

録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切:平成29年9月15日(金)

申込先:研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail:nakamura@jsidre.or.jp

必要記載事項:

- (1) WG名(または部会名) (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行:みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替:00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット(ハンドブック+用語事典+初年度会費)に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック3点セット(従来)

(ハンドブック+用語事典+初年度会費)

学部生 17,000円(15,750円)

大学院生 19,500円(16,750円)

②必携3点セット(新設)

(必携+用語事典+初年度会費)

学部生 7,000円(5,750円)

大学院生 10,000円(7,250円)

③2点セット(新設)

(用語事典+初年度会費)

学部生 5,000円(3,750円)

大学院生 8,000円(5,250円)

()内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたします。

ハンドブック:改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携:資格試験のための農業農村工学必携(第二版)

用語事典:改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先 (公社) 農業農村工学会 図書係

E-mail:suido@jsidre.or.jp

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 8 月号掲載の問題は 9 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成 30 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 30 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募ください。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで、それらは、農村地域のみならず、都市の景観の中にも見つけることができるでしょう。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第 86 巻（平成 30 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切

り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき 20MB 以下とし、形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切

夏季 平成 29 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りません。

6. 審 査

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 86 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 30 年度全国大会会場内でパネル展示します。

8. 「Cover History (表紙写真由来)」執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固

有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社) 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第85, 86巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判1,500字以内)
第85巻第9号 法改正にみる土地改良のこれから	公募終了
10号 進化する畑作(地)農業(仮)	公募終了
11号 地域・事業コーディネート力を発揮した新たな農業農村の創生(仮)	公募終了
12号 「農村協働力」を活かした防災・減災力の強化(仮)	平成29年8月15日
第86巻第1号 農業水利の本質と農業用水利用技術(仮)	平成29年9月15日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

第85巻第12号テーマ「『農村協働力』を活かした防災・減災力の強化」(仮)

近年、自然災害が頻発化、激甚化してきており、昨年は熊本地震、北海道・東北豪雨、鳥取県中部地震など、集中豪雨や地震により各地で農業・農業用施設に甚大な被害が生じました。さらに、今後、南海トラフ巨大地震や首都直下地震など、東日本大震災を上まわる規模の自然災害の発生も懸念されています。

他方、人口減少・高齢化や農業構造の変化などが進む農村地域では、農村協働力が脆弱化し、共同活動を営んできた集落の弱体化、施設の管理や防災の担い手の減少により、地域の防災・減災力の低下が都市部より深刻化しています。

このような中、平成28年8月24日に閣議決定された新たな土地改良長期計画では、「社会資本の継承・新たな価値の創出と農村協働力の深化」を基本理念に掲げ、政策課題の一つである「強くてしなやかな農業・農村」では、農業水利施設の老朽化対策や耐震化等のハード対策のほか、農村協働力を活用したソフト対策を組み合わせ、地域の防災・減災力の向上を促進すると

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社) 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

しています。

頻発化・激甚化する自然災害に対し、時間や費用を要するハード対策だけでは限界があり、「想定外」、「最悪の事態」を想定して地域のコミュニティを活用した防災・減災活動などのソフト対策の推進が一層必要となっています。そのためには、農村協働力の維持・向上を図りつつ、被災状況の迅速かつ確かな把握、防災情報の伝達体制の整備、地域住民の防災意識の向上、ハザードマップの作成、ダムやため池などの基幹水利施設のモニタリング体制の構築や災害時のリスク評価、迅速な復旧活動、業務継続計画(BCP)の策定などに係る知見やノウハウの蓄積と技術開発が重要となります。

そこでこれら『農村協働力』を活かした防災・減災力の強化に関する取組事例や課題・知見、調査・研究について、学会誌掲載の報文として提供していただきたく、民間を含め会員の皆様から広く原稿を募集いたします。

第 86 巻第 1 号テーマ「農業水利の本質と農業用水利用技術」(仮)

地球規模の気候変動が進む中で、降水現象の偏在化や激甚化による河川流況への影響が懸念されています。営農形態の変化や大規模化に伴い、農業用水利用の集中化や分散長期化も生じてきているため、従来の水利権上の取水パターンでは対応できなくなる灌漑地域も多くなっています。また、農地のスプロールの転用や減少に伴い、河川管理者からは用水量の再検討を求められるケースもありますが、面積減少に相当する水量を単純には削減できない特徴を農業水利は有しています。河川流況が変化し、新規水源の確保も難しい中で、水利権に係る河川管理者との技術的・行政的調整にもさまざまな工夫を必要としてい

ます。これらの課題に対し、農業農村工学の現場では、農業水利の実態や特徴を踏まえた河川管理者との協議調整や、農業水利施設の新設や改修、水管理改善などの農業水利技術を適用する事業により、課題の解決をはかってきました。

そこで学会誌「水土の知」では第 86 巻第 1 号で農業水利に関する小特集を組むこととしました。水利権調整や効率的な農業用水利用技術に関する取組み事例や課題、知見、調査や研究の成果について、学会誌掲載の報文として最新情報を提供していただきたく、会員の皆様から広く原稿を募集いたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016 年 7 月から 2018 年 6 月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界 14 カ国から Editor (20 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

一方、2016 年 7 月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・ Editor-in-Chief : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)
Institute for Rural Engineering, NARO (National

Agricultural Research Organization), Tsukuba, Japan

・ Editors 14 カ国から 20 名

・ Advisory Editing Board 29 名

・ Chief Management Editor

Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China

・ Managing Editors

Dr. Jin-Yong CHOI

Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul
National University, Korea

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China

Mr. Nobuyoshi FUJIWARA

Rural Development Division, Japan International
Research Center for Agricultural Science (JIRCAS),
Japan

Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata
University, Japan

編集事務局 (2016 年 7 月から 2018 年 6 月まで) :

・ Dr. Yu-Pin LIN

Distinguished Professor, Ph.D.

Department of Bioenvironmental Systems, Engineering,
National Taiwan University

No.1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei 10617, Taiwan,
Rep. of China

TEL : + 886-2-3366-3467, + 886-2-2368-6980

FAX : + 886-2-2368-6980

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になります。

冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局

平成 29 年度東北支部総会・第 59 回東北支部研究発表会ならびに
第 49 回東北支部研修会・第 39 回地方講習会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請予定



1. 期 日 平成 29 年 11 月 8 日 (水) ~10 日 (金)

12:00~13:00 昼食・休憩

2. 会 場

13:00~15:30 第 39 回地方講習会

「アイーナ いわて県民情報交流センター」

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通 1-7-1

TEL : 019-606-1717

「ホテルルイズ」

〒020-0034 盛岡市盛岡駅前通 7-15

TEL : 019-625-2611

【会場までのアクセス方法】

「アイーナ いわて県民情報交流センター」

JR 盛岡駅西口から徒歩約 4 分

東北自動車道盛岡 IC から車で約 10 分

「ホテルルイズ」

JR 盛岡駅東口から徒歩 約 3 分

東北自動車道盛岡 IC から車で約 15 分

3. プログラム概要 (案)

[第 1 日目] 11 月 8 日 (水)

(1) 現地研修 (一般対象) ※最小催行人数 : 15 名

9:30~10:00 受付・バス搭乗

10:00~17:30 東日本大震災の被災地視察

[第 2 日目] 11 月 9 日 (木)

(2) 支部総会・研究発表会 [会場 : アイーナ]

9:00~9:30 受付

9:30~10:15 支部総会

10:15~10:45 支部賞授賞式

10:45~11:00 休憩

11:00~12:00 特別講演

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~17:00 第 59 回支部研究発表会

(3) 情報交換会 [会場 : ホテルルイズ]

18:00~20:00

[第 3 日目] 11 月 10 日 (金)

(4) 支部研修会・地方講習会 [会場 : ホテルルイズ]

9:30~10:00 受付

10:00~12:00 第 49 回支部研修会

(5) 現地研修 (学生対象) ※最小催行人数 : 15 名

8:00~8:30 受付・バス搭乗

8:30~15:00 東日本大震災の被災地視察

4. 支部大会参加申込方法

(1) 参加申込み

「参加申込書」に必要事項を記入し、所属機関ごとに取りまとめのうえ、E-mail にてお申し込みください。

申込様式は東北支部ホームページよりダウンロードできます。 (<http://www.jsidre.or.jp/tohoku/>)

(2) 参加申込み受付期間

平成 29 年 8 月 21 日 (月) ~10 月 6 日 (金)

(3) 参加費

現地研修 (一般・学生) 無料

総会・研究発表会 3,000 円 (学生会員 1,000 円)

情報交換会 5,000 円 (学生会員 3,000 円)

支部研修会・地方講習会 4,000 円 (非会員 5,000 円)

(4) 参加費の納入方法

参加申込みと同時に次の銀行口座に全額前納で振込み (振込手数料は、振込人負担) をお願いします。

【振込先】

銀行名 : ゆうちょ銀行 (金融機関コード 9900)

店 名 : 八二八 (店番号 : 828)

口座番号 : 普通預金 1803103

口座名 : 公益社団法人農業農村工学会東北支部事務局

(シヤ) ノウギョウノウソソコウガクカイトウ

ホクシブジムキョク

【留意事項】

振込元が申込書と照合できるように、所属・氏名等を必ず記入してください。

なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承ください。

(5) 参加申込・問合せ先

農業農村工学会東北支部事務局

岩手県農林水産部農村建設課 中村, 高村, 青山
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸 10-1
TEL : 019-629-5685
E-mail : nousonseibi@pref.iwate.jp

岩手大学農学部食料生産環境学科 原料まで
Email : hkoji@iwate-u.ac.jp

5. 研究発表の申込み

- (1) 研究発表申込み・原稿受付期間
平成 29 年 8 月 21 日 (月) ~ 9 月 25 日 (月)
- (2) 研究発表申込み・問合せ先
〒020-8550 岩手県盛岡市上田 3-18-8

(3) 要領

研究発表要旨集原稿の書き方, 投稿票ファイルおよび発表の方法については, 農業農村工学会東北支部のホームページに掲載していますので, 参照してください。

6. 宿泊について

宿泊についての斡旋はいたしませんので, ご了承ください。

平成 29 年度九州沖縄支部大会 (第 98 回講演会・講習会・シンポジウム・特別講演会) の開催について (第 3 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



標記大会の開催について本誌 7 月号にて掲載しておりましたが, 平成 29 年 7 月 5 日から発生しました九州北部豪雨により, 大会 2 日目に予定していました現地見学会を中止いたします。なお, 中止に伴い, 7 月号に掲載しました支部大会開催のご案内を以下のように改めましたので, ご周知のほど, よろしくお願ひ申し上げます。

1. 日 時

- 平成 29 年 11 月 1 日 (水)
9 : 30 ~ 17 : 00 開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講演会
- 18 : 00 ~ 20 : 00 情報交換会
- 平成 29 年 11 月 2 日 (木)
10 : 00 ~ 15 : 00 特別講演会・講習会

2. 会 場 (開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講演会・特別講演会・講習会・情報交換会)

パピヨン 24 (<http://www.papillon24.jp/>)
〒890-0055 福岡市博多区千代 1-17-1 3 階
TEL : 092-633-2222 FAX : 092-633-2299
(JR 吉塚駅より徒歩 15 分, 地下鉄:「千代県庁口」4 番出口と直結)

3. プログラム (予定)

- (1) 11 月 1 日 (水) 開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講演会・情報交換会
 - ① 8 : 30 ~ 受付
 - ② 9 : 30 ~ 10 : 00 開会式 (2 階 ガスホール)
 - ③ 10 : 00 ~ 10 : 20 支部賞授賞式 (2 階 ガスホール)
 - ④ 10 : 30 ~ 12 : 00 シンポジウム (2 階 ガスホール)
テーマ:「最新のストマネ診断法」(予定)
 - ⑤ 12 : 00 ~ 13 : 00 講演会【ポスターセッション】
(2 階 ガスホールホワイエ)
 - ⑥ 13 : 00 ~ 17 : 00 講演会【オーラルセッション】
第 1 会場 (2 階 ガスホール)
第 2 会場 (2 階 14 号会議室)
第 3 会場 (3 階 12 号会議室)

第 4 会場 (3 階 10・11 号会議室)

⑦ 18 : 00 ~ 20 : 00 情報交換会

(2 階 ガスホールホワイエ)

情報交換会の中で, ポスター賞授賞式および交流会を行います。

(2) 11 月 2 日 (木) 特別講演会・講習会

① 9 : 00 ~ 受付

② 10 : 00 ~ 12 : 00 特別講演会 (2 階 ガスホール)

テーマ:「アフガニスタンに命の水を」(仮題)

ベシヤワール会現地代表 中村 哲

③ 13 : 00 ~ 15 : 00 講習会 (2 階 ガスホール)

テーマ:「設計基準 計画『暗きょ排水』基準書について」

「農業農村整備に関する技術開発計画について」

4. 参加費

	講演会	特別講演会	講習会	昼食 (1 日)	昼食 (2 日)	情報交換会
一般料金	6,000 円	1,000 円	3,000 円	1,000 円	1,000 円	4,000 円
学生料金	3,000 円	500 円	2,000 円	1,000 円	1,000 円	3,000 円

※ 1 シンポジウムの参加費は無料です。

※ 2 参加費内訳

講演会: 講演集代 6,000 円 (学生 3,000 円)

特別講演会: テキスト代 1,000 円 (学生 500 円)

講習会: テキスト代 3,000 円 (学生 2,000 円)

5. 講演会 (オーラル・ポスター) の発表申込み・発表方法

平成 29 年度支部大会の運営および参加申込受付は, 大会運営事務局 (福岡県) が担当し, 講演会の発表申込受付とプログラム編集は, 九州沖縄支部事務局 (佐賀大学) が担当します。講演会の発表については, 下記によりお申し込みください。

なお, オーラルセッションとポスターセッションの投稿方法は下記のとおり統一されています。また, 学生会員 (学部生・研究生・大学院修士) はオーラルセッションではなく, ポスターセッションにお申し込みください。

(1) 投稿方法

「講演要旨 (PDF 形式)」と「講演会投稿票 (MS-Excel 形式)」の各ファイルを電子メールに添付してご投稿ください。電子メールの件名には「2017 九州沖縄支部大会」と記載してください。

なお、講演会投稿票は、9.の支部ホームページからダウンロードしてご利用ください。

(2) 講演要旨・講演会投稿票の書き方

9.の支部ホームページから、「講演会投稿票・講演要旨の書き方および電子投稿要領」をダウンロードし、ご参照ください。

また、過去15年以内に価値ある業績等を通算3回以上口頭で発表した会員に授与する研鑽賞は自己申告制ですので、受賞対象者になると思われる方は講演会投稿票に必要事項を記入して申告してください。

(3) 投稿先 (九州沖縄支部事務局)

E-mail : tomh@cc.saga-u.ac.jp

(佐賀大学農学部 原口)

(4) 投稿締切

平成29年8月23日(水)

(5) オーラルセッションの発表方法

1 課題当たりの発表時間は質問・交代時間を含めて12分程度です。発表用機材としてパソコン(OS: Windows, ソフト: MS-PowerPoint2013)とプロジェクターを大会運営事務局で用意します。OHP・スライド用機材は用意することができませんのでご了承ください。

(6) ポスターセッションの発表方法

原則として学生会員(学部生・研究生・大学院修士)を対象に募集します。ポスター賞を若干名に授与します。事前のポスター送付は不要です。

① 用紙および枚数

1 課題当たり A0 判 (縦) 1 枚以内

② ポスターの掲示

11月1日(水)正午までに、発表者の責任で掲示用パネルにポスターを掲示してください。掲示用パネルのサイズは(高さ)2.1m×(幅)1.8mとなる予定です。

6. 支部大会参加申込方法

(1) 参加申込み

参加申込書により所属ごとに取りまとめ、下記8.の大会参加申込受付(参加申込先)へ、FAXによりお申し込みください。

なお、講演会での発表希望者も参加申込みが必要です。参加申込書(MS-Excel形式)の作成は、下記9.の支部ホームページからファイルをダウンロードしてご利用ください。

(2) 申込期限

平成29年8月30日(水) ※当日受付可

※会場の都合により定員になり次第、締め切りますので、早めにお申し込みください。

(3) 参加費の納入

申込みを受け付けた後、1週間以内(土日を除く)に確認書、9月中旬に電子データにて請求書を送付いたしますので、内容を確認の上、同封の請求書記載の期限までにお振り込みください。

※振込後の参加費等の返還には応じられませんので、ご注意ください。

(4) 宿泊について

大会運営事務局では宿泊の斡旋・手配は行いませんので、ご了承ください。

7. 大会運営事務局

農業農村工学会九州沖縄支部大会運営事務局

(事務局長:宮原)

(福岡県庁農林水産部農山漁村振興課技術管理係 担当:今村)

〒812-8577 福岡県福岡市博多区東公園7-7

TEL: 092-643-3504 FAX: 092-642-4605

E-mail: imamura-d9520@pref.fukuoka.lg.jp

8. 大会参加申込受付(参加申込先)

JR九州旅行法人営業支店

〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東1-12-23

JR九州1号ビル4階

TEL: 092-474-8129 FAX: 092-474-8194

9. 支部ホームページ

農業農村工学会ホームページの支部のページ:

<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>

農地保全研究部会勉強会の開催について(第1報)

農地保全研究部会では、8月29日から9月1日にかけて日本大学生物資源科学部 湘南キャンパスで開催される平成29年度農業農村工学会大会講演会に合わせて、農地保全研究部会勉強会を開催する予定です。当勉強会では、土壌侵食に関するこれまでの研究の足跡を振り返るとともに、現在進行形の研究課題に関する講演、今後必要とされる農地保全研究に関する総合

討論などを予定しております。詳しくは、農地保全研究部会ホームページにてお知らせします。多くの方のご参加をお待ちいたしております。

農地保全研究部会 URL:

<http://www.jsidre.or.jp/nouchihozen/>

土壤物理研究部会第 56 回研究集会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主 催 農業農村工学会土壤物理研究部会
共 催 土壤物理学会
2. 日 時 平成 29 年 10 月 13 日 (金)
3. 場 所 北海道大学 (札幌市)
4. 参加費 1,500 円 (要旨集代, ただし学生は無料)
5. プログラム 調整中
6. その他
 - ・宿の予約は個別に手続きをしていただきますようお願いいたします。時節柄混み合うことが予想されています。できるかぎり早めの予約手続きをお願いいたします。
 - ・後日の 10 月 14 日 (土), 同所にて「土壤物理学会シンポジウ

ム」を開催予定です。情報交換会は後日開催の土壤物理学会と共催します。詳しくは土壤物理学会ホームページ (<https://js-soilphysics.com/conf>) をご覧ください。

7. 問合せ先

農業農村工学会土壤物理研究部会事務局
〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町 1
佐賀大学農学部生物環境科学科
徳本 家康 (とくもと いえやす)
TEL : 0952-28-8755 E-mail : yasu@cc.saga-u.ac.jp
<http://www.jsidre.or.jp/dojou/>

農地保全研究部会第 38 回研究集会および現地研修会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農地保全研究部会は、農地保全に関する基礎的な研究と応用に関する総合的な研究を行うことにより、農業農村工学分野の学術・技術の振興と社会の発展に寄与することを目的としています。そこで、本年度は「水田転作と農地保全」をテーマとして、農地保全技術・研究、水田の排水対策、汎用化水田と土壌侵食、生産基盤の強靱化など、幅広いテーマについて、講演ならびに総合討論を行います。また、講演については、公募課題として 1~2 課題程度の講演を募集することを予定しています。

1. 主 催 農業農村工学会農地保全研究部会
共 催 農研機構西日本農業研究センター
後 援 農林水産省中国四国農政局, 広島県
2. 開催日
 - (1) 研究集会 平成 29 年 11 月 16 日 (木) 10:00~17:00
 - (2) 現地研修会 平成 29 年 11 月 17 日 (金) 9:00~15:00
3. 場 所
 - (1) 研究集会 農研機構西日本農業研究センター 講堂 (広島県福山市)

(2) 現地研修会 広島県世羅郡世羅町ほか

4. テーマ 水田転作と農地保全

5. 演 題 (予定)

「世羅町における農業基盤整備と担い手育成の現状」

世羅町産業振興課 升行真路

「キャベツの大規模農業団地に向けた基盤整備の取組 (仮)」

広島県西部農林水産事務所農村整備第二課 佐々木拓治 ほか

6. 問合せ先

農地保全研究部会研究集会事務局・庶務幹事 望月
E-mail : NN_Nouchihozen_Sympo_Office@ml.affrc.go.jp
※日程の詳細や講演者、参加申込方法などの実施要領については、今後、本誌および農地保全研究部会ホームページをご確認ください。

農地保全研究部会 URL :

<http://www.jsidre.or.jp/nouchihozen/>

平成 29 年度農業農村整備サマーセミナー (第 54 回) の開催について

技術者継続教育機構認定プログラ申請中



平成 29 年度農林水産省の予算重点事項には、強い農林水産業のための基盤づくりとあわせて、人口減少社会における農山漁村の活性化があげられ、農村振興技術者に対する期待が高まっています。

今年のサマーセミナーでは、農村振興や農業農村の基盤づくりに大きく関係していく土地改良法の改正と、近年注目されているインバウンドなどによる農村の振興について、多方面の講師からお話を伺う機会といたしました。農政全般の動きなどについては、農林水産省の食料・農業・農村政策審議会の委員をされておられる東京大学大学院の中嶋康博教授から、土地改良

法の改正については、ご担当の農林水産省農村振興局土地改良企画課の山口課長から審議の経過などを含めお話を伺います。また、農泊・都市農村交流では農政における位置づけやわが国の現状をご担当の都市農村交流課の日置課長から、栃木県において官民連携パートナーシップ形式により旅行者を受け入れている (株) 大田原ツーリズムの藤井社長からお話を伺うなど、最新の情報を提供いたします。

新たな農政の展開の中で、農村振興技術者は適切かつ積極的に対応していくことが求められています。今回のサマーセミナーに多数のご参加をいただき、最近の農業農村をめぐる動き

について最新かつ幅広い情報を吸収していただければ幸いです。

1. 主催 全国農村振興技術連盟
後援 (公社) 農業農村工学会

2. テーマ

人口減少型社会における農業・農村の基盤づくり
～土地改良法改正、農泊・都市農村交流～

3. 開催日 平成29年8月23日(水) 9:50～16:50
受付は9:10から行います。

4. 場所 東京都千代田区北の丸公園2-1
科学技術館地下2階 サイエンスホール
TEL: 03-3212-8485

5. プログラム

(講師およびテーマに変更がある場合があります)

9:50～10:30 開会挨拶

全国農村振興技術連盟委員長 林田直樹
(公社) 農業農村工学会会長 久保成隆
農林水産省農村振興局次長 室本隆司
記念式典・大賞表彰式

10:50～12:10 講演

「農業・農村を取り巻く課題と農村振興(仮題)」

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 中嶋康博

12:10～13:10 (休憩)

13:10～14:30 講演

「土地改良法改正の概要(仮題)」

農林水産省農村振興局土地改良企画課長 山口潤一郎

14:30～14:40 (休憩)

14:40～15:50 講演

「農村観光による地方創生(仮題)」

(株) 大田原ツーリズム 代表取締役社長 藤井大介

15:50～16:50 講演

「農泊の推進について(仮題)」

農林水産省農村振興局都市農村交流課長 日置秀彦

6. 参加費 8,000円(昼食代は含まず。参加費は当日会場で申し受けます。)

7. 申込締切 平成29年8月16日(水)

8. 申込み・問合せ先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

全国農村振興技術連盟

TEL: 03-3434-5407 FAX: 03-3578-7176

E-mail: kensyu@n-renmei.jp

申込方法等の詳細は全国農村振興技術連盟ホームページ(<http://www.n-renmei.jp/>)をご覧ください。

本セミナーは、技術者継続教育機構会員のCPD単位(申請中)にカウントされます。

第20回(2018年)「日本水大賞」の募集について

1. 目的

日本水大賞は、21世紀の日本のみならず地球全体を視野に入れて、水循環の健全化を目指し、美しい水が紡ぎ出す自然の豊かさの中にも水災害に対して強靱な国土と社会の実現に寄与することを目的としています。

2. 対象範囲

- (1) 対象となる活動分野

水循環系の健全化や水災害に対する安全性の向上に寄与すると考えられる活動で、水防災、水資源、水環境、水文化、復興のような分野における諸活動(研究、技術開発を含む)を対象とします。

- (2) 対象となる活動主体

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、学校、企業、団体、個人、行政の方々が実施する諸活動を対象とします。なお、個人、法人、グループの種別、年齢、職業、性別、国籍等を問いません。

3. 日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して以下の賞を授与し、広く公表します。なお、副賞は受賞活動をさらに継続していただくよう授与しています。

- ①大賞【グランプリ】(賞状・副賞200万円)

- ②大臣賞(賞状・副賞50万円)

【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】【厚生労働大臣賞】

【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】【経済産業大臣賞】

ほか

4. 選定の方法等

日本水大賞委員会の下に、上記の賞を選考するために審査部会を設置し、表彰対象となる活動を審査し、最終的には日本水大賞委員会が決定します。

5. 募集期間

平成29年7月7日(金)～10月31日(火)(郵送の場合は当日消印有効)

6. 応募方法

応募用紙(3枚:ホームページからダウンロードしてください)に必要事項をご記入の上、応募用紙および添付資料を事務局あてに送付または持参してください。応募用紙および添付資料が電子データの場合は、E-mailでも応募を受け付けます。

応募方法の詳細はホームページを参照してください。

7. 主催等

- (1) 主催 日本水大賞委員会

名誉総裁 秋篠宮文仁親王殿下

委員長 毛利 衛(日本科学未来館館長)

